しずおかけんはままつし
静岡県浜松市

梶子北遺跡Ⅲ

かじこきた

2007年3月

財団法人　浜松市文化振興財団

例　言

1．本書は宅地造成工事に伴い、静岡県浜松市西伊場町2275-1外で実施した梶子北遺跡の発掘調査報告書である（教文 第1037号 平成18年９月８日付）。

2．梶子北遺跡は、ＪＲ東海浜松工場内に位置する梶子遺跡の北西側にあることから命名されたもので、大きくは伊場遺跡群（伊場・城山・梶子遺跡）に含まれる。当遺跡の調査は、雄踏街道拡幅工事に伴って行われた三永地区を除けば、今回で３度目になることから、３次調査とする。

3．調査に係る費用は、株式会社岡崎住宅が負担した。

4．調査期間　契約期間　　2006年９月１日～2007年３月23日（契約日2006年９月１日）
　　現地発掘調査　2006年９月19日～同年９月22日
　　整理作業・報告書作成作業　2006年９月25日～2007年３月23日

5．調査面積　約213㎡

6．調査体制　調査受託機関　財団法人　浜松市文化振興財団
　　調査指導機関　浜松市教育委員会　生涯学習部生涯学習推進課
　　調査担当者　　佐藤由紀男、鈴木敏則、村松聡一郎
　　（浜松市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課）
　　補助調査員　　野末亮、冨永里菜（浜松市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課）
　　事務担当者　　川村恭子、中嶋陽子（財団法人　浜松市文化振興財団）

7．本書に係る整理作業及び執筆は、村松聡一郎が行った。

8．調査記録に係わる諸記録及び出土遺物は、浜松市教育委員会が保管している。

9．標高値は海抜を示す。調査区の位置出しは、既存建造物及び境界杭から行った。

目　次

例言
第１章　はじめに …… 1
第２章　調査の経緯と経過 …… 3
第３章　調査の成果 …… 3
第４章　まとめ …… 7
図版
抄録

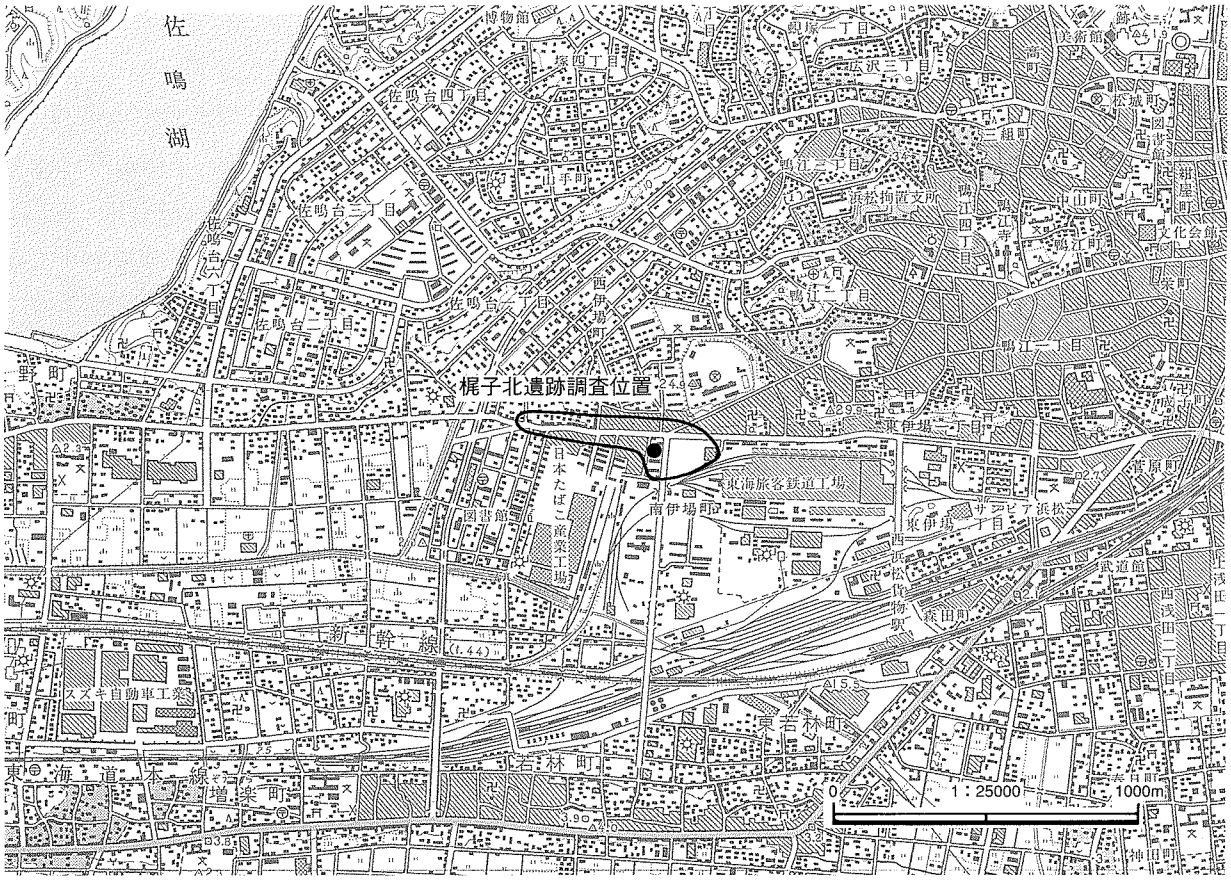
第１章　はじめに

位置と環境（第１図）　今回、本調査を実施した梶子北遺跡は、浜松市西伊場町と南伊場町にまたがって立地している。浜松市南部の海岸平野には、現在の中田島砂丘を含めて、８条の砂丘列が確認されている。約6000年前をピークとする縄文海進の後、海水面が低下し始め、少なくとも第１～３砂丘は5000年前には形成された。最初に形成された第１砂丘は、三方原台地の直下にあり、現在ここに雄踏街道が通っている。その南側に位置する第２砂丘は、途切れながら認められている程度であるが、部分的には標高が３ｍに達するところがある。梶子北遺跡（南部）が立地する地形は、古くは第１・第2砂丘間に挟まれた湿地帯であるが、数千年前に流入した洪水砂層を基盤としている。つまり、梶子北遺跡（南部）と梶子遺跡は砂丘間の湿地に形成された微高地に立地している。また、立地ばかりでなく、この海岸平野における居住環境や生産活動は、海水準の上下動、地盤の沈降や隆起に大きな影響を受けていたことにも、着目しておかなければならない。

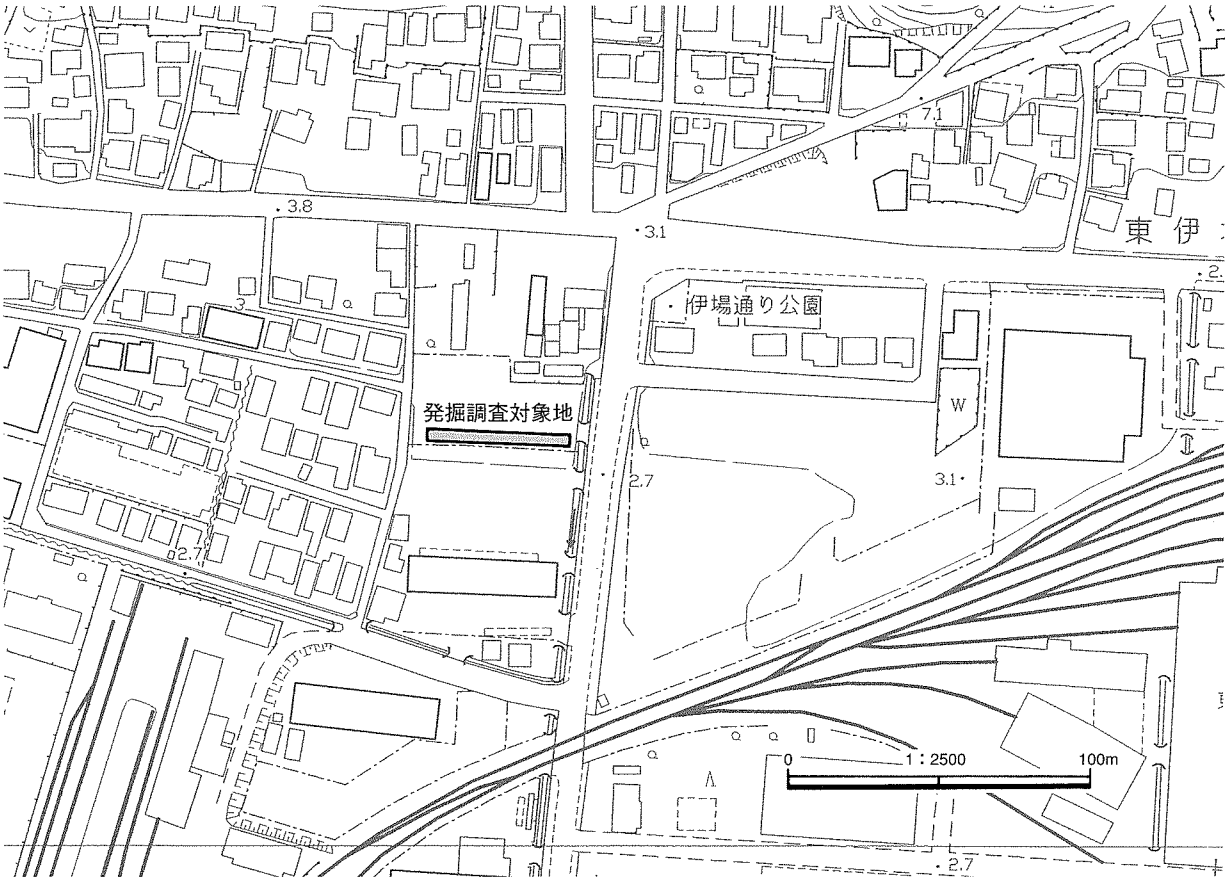
過去の調査（第１表）　９世紀代の郡衙の郡庁もしくは館と考えられる整然と並ぶ掘立柱建物群が検出されている。そして、梶子北大溝と呼ばれる旧河道からは、「大領」と書かれた木簡や、役人が身につけていた銅製の帯金具が出土している。また、建物群や旧河道の下層からは、弥生時代の水田跡や土壙群も広範囲にわたって検出されている。水田に伴う大畦畔は１辺が30ｍほどで、その中を数ｍ角の小畦畔で区画するものである。その水田の下層には土壙があり、300基以上が確認されている。

第１表　梶子・梶子北・中村遺跡発掘調査一覧

調査名称	現地調査期間	面積	原因	調査主体
（発見の発端）	1962		土器が発見され博物館に持ち込まれる	
（伊場遺跡）	1968～1981（13回）	36000㎡	伊場遺跡の調査開始	浜松市教育委員会
（調査要因）	1970～		工場内建物の建替増加	
（事前協議）	1976		国鉄との埋文取扱協議が合意	
梶子１次	1976.12	40㎡	職員便所建設工事	浜松市教育委員会
梶子２次	1977.01～05	200㎡	配水管埋設工事	浜松市教育委員会
梶子３次	1978.02～03	288㎡	変圧器工場建設工事	浜松市教育委員会
梶子４次	1978.12～1979.02	520㎡	主変圧器保管庫増設工事	浜松市教育委員会
梶子５次	1979.10～12	360㎡	新幹線電車検修要員教育設備新設工事	浜松市遺跡調査会
梶子６次	1982.05～12	1747㎡	更衣室浴場及び守衛本部建設工事	浜松市遺跡調査会
梶子７次	1982.10～1983.03	1401㎡	工機作業場新設工事	浜松市遺跡調査会
梶子市河川その1	1983.11～1984.02	233㎡	浜松市水路改修工事	浜松市教育委員会
梶子８次	1990.08～12	2493㎡	社員会食所及び汚物タンク作業場建設工事	(財)浜松市文化協会
梶子９次	1992.07～12	2000㎡	社宅新築工事	(財)浜松市文化協会
梶子９次付随	1993.03～04	40㎡	南伊場社宅新築に伴う排水設備埋設工事	浜松市教育委員会
梶子市下水その2	1994.12～1995.01	31㎡	浜松市下水道工事	浜松市教育委員会
梶子１０次	2001.10～2002.08	2252㎡	雄踏街道拡幅支障移転に伴う建物建設工事	(財)浜松市文化協会
梶子北１次	1994.02～1995.07	13200㎡	雄踏街道拡幅及び代替地造成工事	(財)浜松市文化協会
梶子北２次	1999.10	150㎡	県職員住居の建設工事	(財)浜松市文化協会
梶子北３次	2006.09	213㎡	宅地造成工事	(財)浜松市文化振興財団
梶子北（三永）	1999.11～2003.03	4542㎡	雄踏街道拡幅工事	(財)浜松市文化協会
中村	1999.11～2003.08	4106㎡	雄踏街道拡幅工事	(財)浜松市文化協会
中村（南伊場）	2002.08～2003.03	5477㎡	雄踏街道拡幅工事	(財)浜松市文化協会



第１図　梶子北遺跡位置図



第２図　調査位置図

第２章　調査の経緯と経過

1．調査に至る経緯（第２図）

浜松市西伊場町2275-1外において宅地造成工事が計画され、文化財保護法第93条第１項による届出書が、静岡県教育委員会あてに提出された（平成18年８月21日付）。事業地は、梶子北遺跡が及んでいる範囲に位置していたため、埋蔵文化財の取扱いについて浜松市教育委員会と株式会社岡崎住宅が協議を行い、公道への移管が予定されている区域について本発掘調査を実施することとなった。発掘調査は浜松市教育委員会の指導の下、財団法人浜松市文化振興財団が実施し、調査にかかわる必要経費は株式会社岡崎住宅が負担した。

2．調査経過

９月19日　発掘器材を搬入した。安全対策としてバリケードを設置した。調査区の位置出しをした。調査区の隣接地にベンチマークを移動した。

９月19日～22日　重機（バックフォー）により、遺構検出面直上まで掘削した後、人力により遺構の検出及び掘削をした。調査区及びその周辺を測量し、平面図を作成した。弥生時代の遺構検出面から遺構が検出され、平面図を作成し、遺構写真を撮影した。壁面の土層断面図を作成した。

９月22日　完掘写真を撮影した。発掘器材を撤収した。バリケードを撤去した。

９月25日～翌年３月23日　遺物洗浄・注記・接合等整理作業を実施した。報告書用の図版等を作成し、本発掘調査の報告書を作成した。

第３章　調査の成果

１．層位

今回の調査では、第３図に示したように10層からなる土層堆積を確認した。ここでは、上から順に第１層から第10層とする。

１層は盛土である。

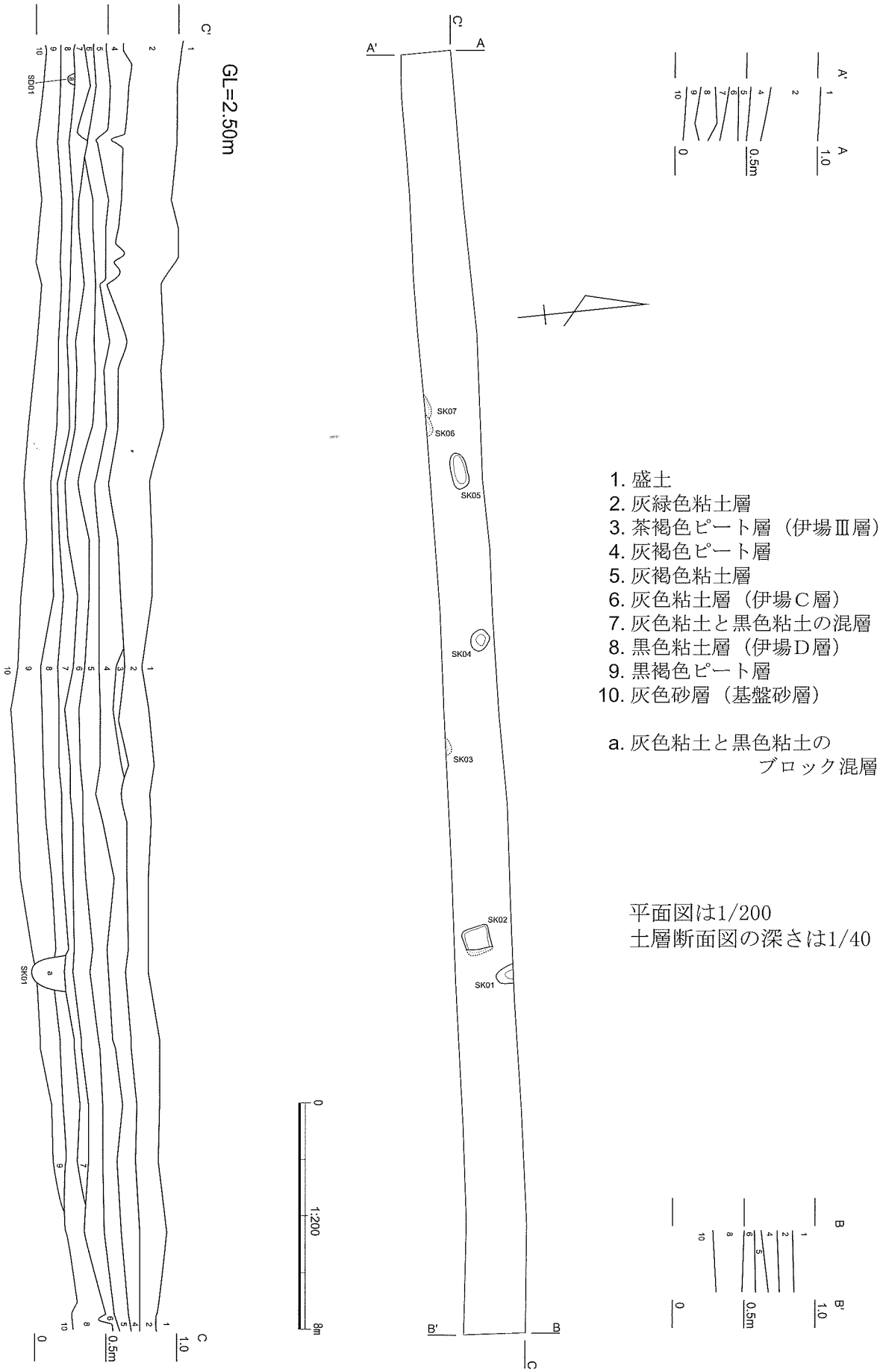
２層は灰緑色粘土層で、中世以降の水田や蓮池の耕作層と、その床土である。盛土が行われるまで耕作が及んでいた層である。

３層は茶褐色ピート層で、伊場Ⅲ層と呼ばれる10～13世紀の遺物包含層である。

４層は灰褐色ピート層で、灰色の強い層ではあるが、伊場遺跡の層序に従えば、Ⅲ層に対比できる層である。

５層は灰褐色粘土層で、伊場Ⅳ層と呼ばれる８～10世紀の遺物包含層に対比できる層である。

これら３～５層は、旧流路内堆積層である。今回の調査区は、これらの層が全域に堆積していることから、流路内（河底近く）に位置していたと考えられる。



1. 盛土
2. 灰緑色粘土層
3. 茶褐色ピート層（伊場Ⅲ層）
4. 灰褐色ピート層
5. 灰褐色粘土層
6. 灰色粘土層（伊場Ｃ層）
7. 灰色粘土と黒色粘土の混層
8. 黒色粘土層（伊場Ｄ層）
9. 黒褐色ピート層
10. 灰色砂層（基盤砂層）

a. 灰色粘土と黒色粘土の
ブロック混層

平面図は1/200
土層断面図の深さは1/40

第３図　調査区全体図

6層は灰色粘土層で、伊場C層（3～5世紀）と呼んでいる。基本的には無遺物層であるが、今回のように、わずかな土器片が検出されることもある。この層は撹拌が認められたことから、水田耕作層と考えられる。今回の調査区東側で行われた1次調査では、この層を基盤層とし、9～10世紀代の敷智郡の郡庁もしくは館に伴う建物群が検出されている。この建物群を検出した6層上面の標高は70～80cmであるのに対し、今回の調査区南側で行われた2次調査では60cm前後、今回の調査では30～60cmということで、包含層は西に向かって下がっていることがわかる。

7層は灰色粘土と黒色粘土の混層で、弥生時代後期のものと思われる遺物が出土している。撹拌が顕著で、水田耕作層である。

8層は黒色粘土層で、伊場D層（1～3世紀）と呼ばれる弥生時代中期～後期前半の遺物包含層である。今回、この層から弥生時代中期の遺物が出土している。

9層は黒褐色ピート層である。

10層は灰色砂層（基盤砂層）で、4000年前の洪水で第1・第2砂丘間の湿地に流入した砂層と推定されている。

2．検出遺構（第2表、第4図）

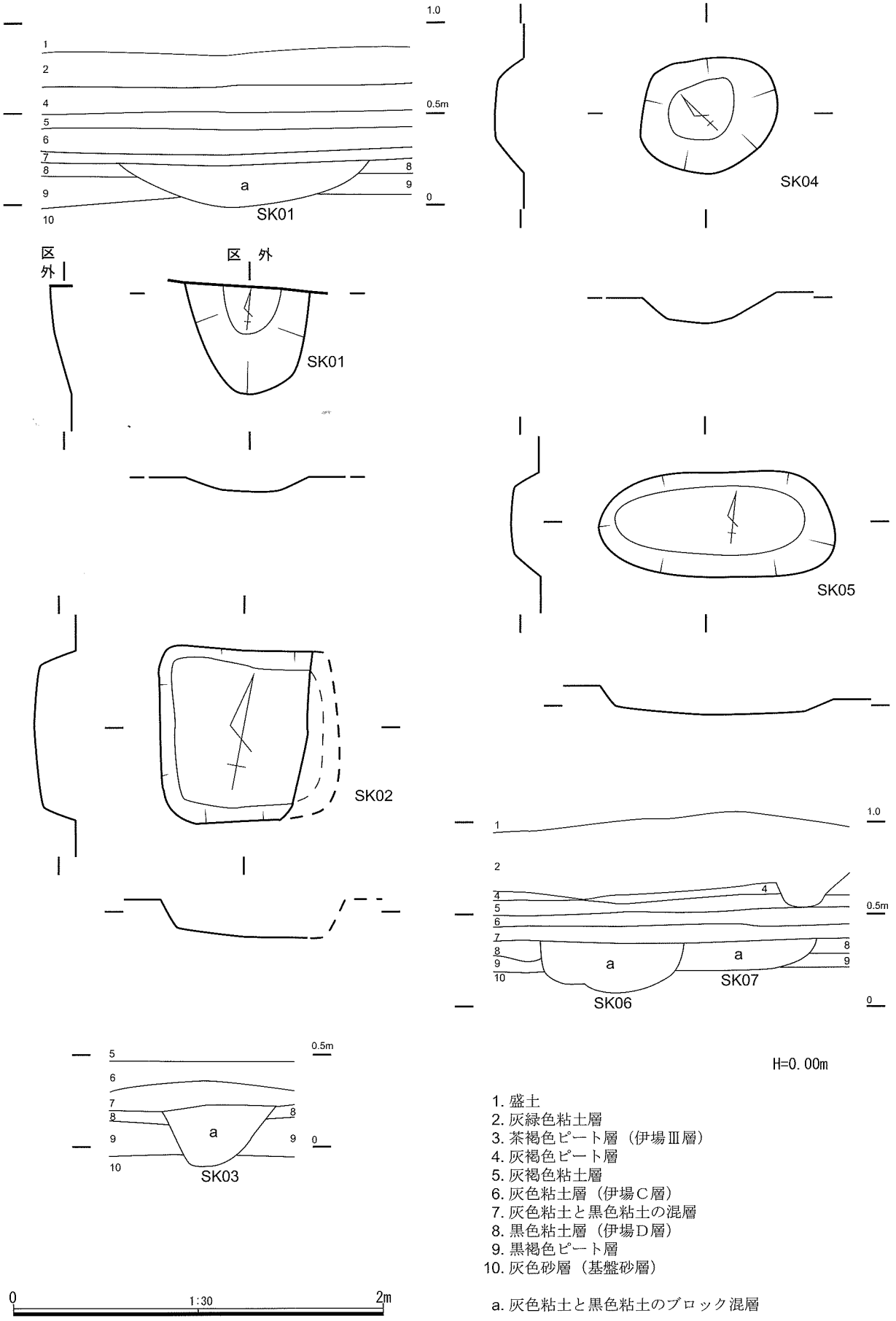
今回の調査では古代の遺構面である6層上面と、弥生時代の遺構面である10層上面で遺構検出作業を行っている。

6層の上面において、1次調査では、律令時代の遺構が検出されている。しかし、2次調査と同様に、今回の調査においては遺構は認められない。

10層を切り込む土壙を7基検出したが、これらの土壙から遺物は出土していない。SK06では、上面より遺物が検出されたが、弥生土器の可能性が高いとしか言えない破片である。つまり、これらの土壙は1次・2次調査と同様に、基本的に土器を伴わない遺構である。7基の土壙のうち壁面で検出されたSK01、03、06、07は、8層の上面から切り込んでいる。これらの土壙の年代は、土壙の上を覆う7層が弥生時代後期後半～古墳時代前期の水田耕作層とされていることから、それ以前ということになり、おおむね弥生時代後期前半と考えられる。

第2表　遺構一覧

遺構名	大きさ		深さ	底面標高	年代	出土遺物	性格・備考
	長径(m)	短径(m)	(m)	(m)			
SK01	—	—	0.310	−0.070	弥生時代後期		
SK02	(0.96)	0.94	0.230	−0.130	弥生時代後期		
SK03	—	—	0.320	−0.100	弥生時代後期		
SK04	0.72	0.63	0.170	−0.140	弥生時代後期		
SK05	1.27	0.58	0.160	−0.050	弥生時代後期		
SK06	—	—	0.270	0.080	弥生時代後期	上面に弥生土器小片	
SK07	—	—	0.180	0.190	弥生時代後期		
SD01	—	—	0.070	0.200	弥生時代後期		SPか



1. 盛土
2. 灰緑色粘土層
3. 茶褐色ピート層（伊場Ⅲ層）
4. 灰褐色ピート層
5. 灰褐色粘土層
6. 灰色粘土層（伊場C層）
7. 灰色粘土と黒色粘土の混層
8. 黒色粘土層（伊場D層）
9. 黒褐色ピート層
10. 灰色砂層（基盤砂層）

a. 灰色粘土と黒色粘土のブロック混層

第4図　遺構図

3．出土遺物（第5図）

1は、弥生時代中期中葉の瓜郷式壺胴部片である。

2は4世紀、古墳時代前期の古式土師器壺口縁部である。

3～7は、すべて須恵器である。3は8世紀前半、奈良時代の坏蓋つまみ部。4は8世紀中後期、奈良時代の有台坏身台部。5は8世紀後半、奈良時代の皿。6は8世紀後半、奈良時代の有台皿底部。7は9世紀前半、平安時代の糸切り碗底部である。

8は13世紀、鎌倉時代の山茶碗底部である。

9と10は加工材である。9は8層から出土した弥生時代中期のヒノキ材。10は5層から出土した平安時代のものである。

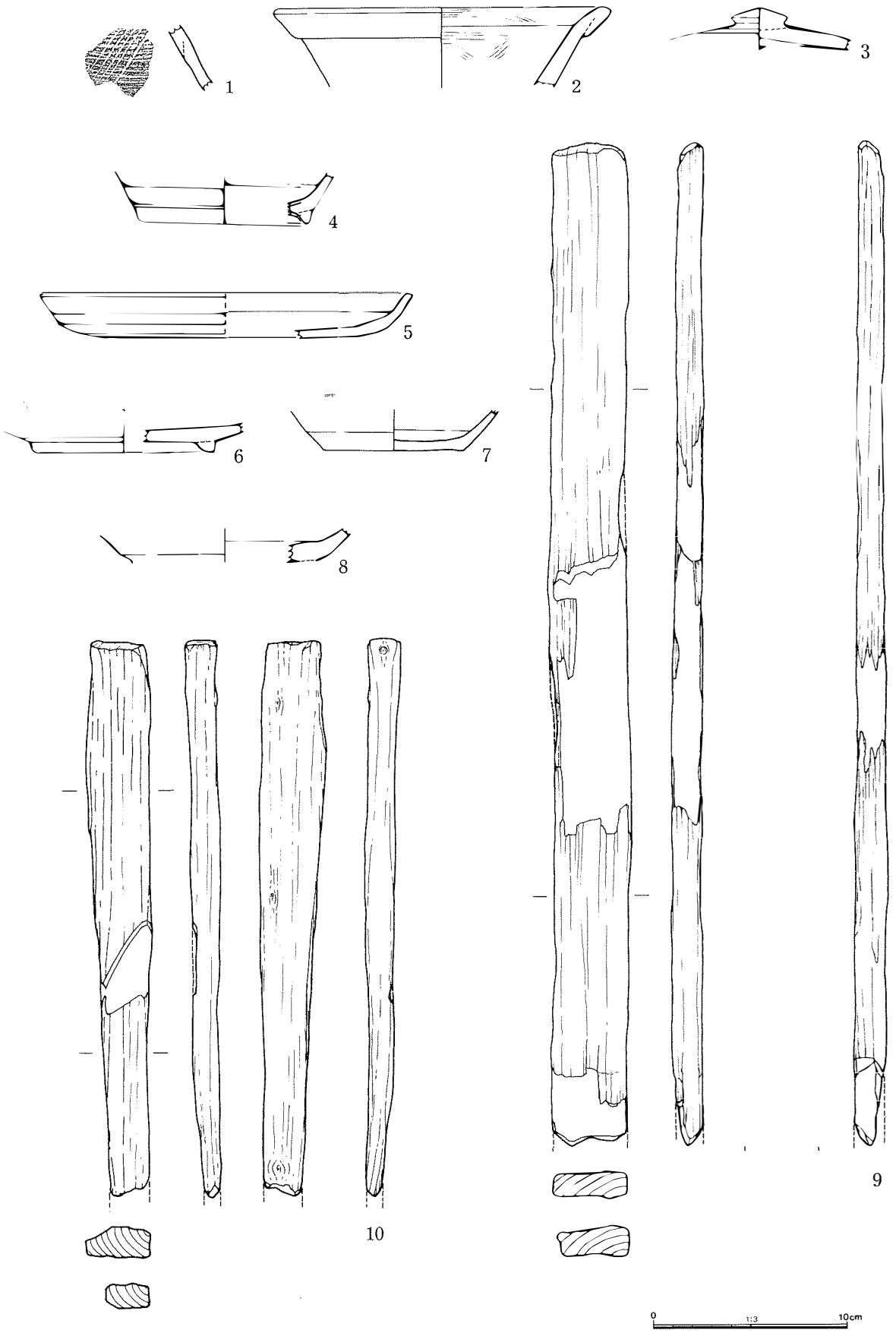
図示はしていないが、写真図版5に示した11は6世紀、古墳時代後期の土師器で甕口縁部。12は8世紀、奈良時代の土師器で甕口縁部。13は9世紀後半、平安時代の灰釉陶器で黒笹90号窯大型碗高台部。14は13世紀、鎌倉時代の山皿口縁部である。

第4章　まとめ

1次調査では、9～10世紀代の敷智郡の郡庁もしくは館と推定される建物群が確認されている。今回は、2次調査と同様に、建物は検出されていない。これは、基盤層とする6層上面の高さが10cm以上低くなっており、旧河道内に入っているためである。

1次・2次調査では、梶子北大溝の南に弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけて広域に水田が営まれていたことが判明している。今回も、弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての水田耕作層を確認している。

1次・2次調査では、弥生時代後期前半の土壙が300基以上も確認されている。今回も、7基の土壙を検出している。これらの土壙の覆土は、灰色粘土と黒色粘土がブロック状に堆積している。掘った後、直ちに埋め戻されたと考えられることから、墓と推定されている。年代は、土器を伴っておらず、上層に存在する水田の年代から、弥生時代後期前半と推定されている。



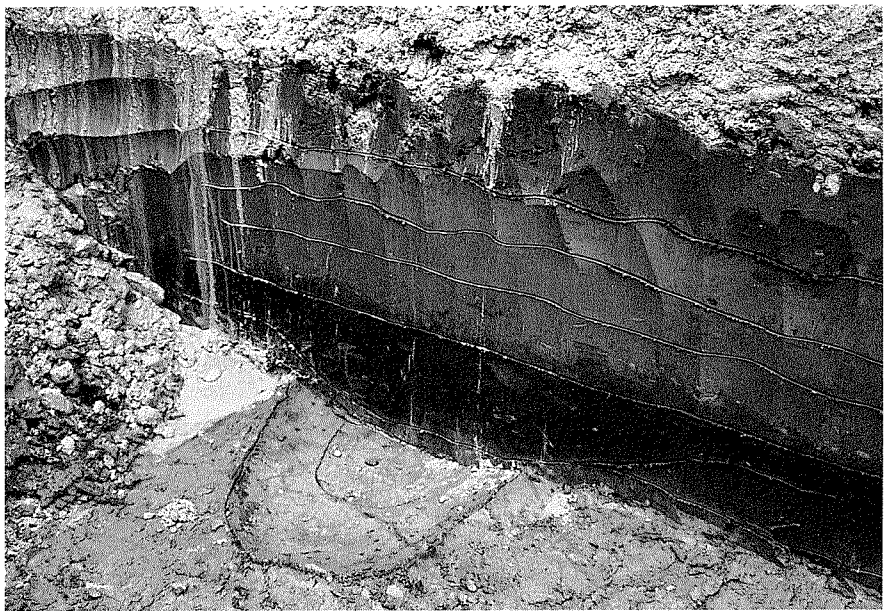
第５図　出土遺物実測図

写真図版　1

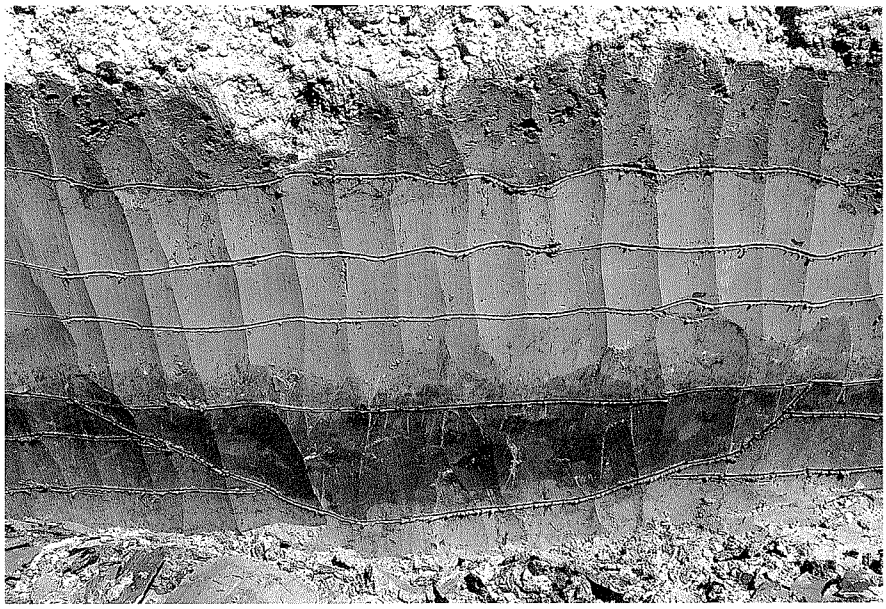
1．調査区完掘状況（東より）

2．調査区完掘状況（西より）

写真図版　2



1．ＳＫ01（南東より）



2．ＳＫ01土層断面
（南より）

3．ＳＫ02（西より）

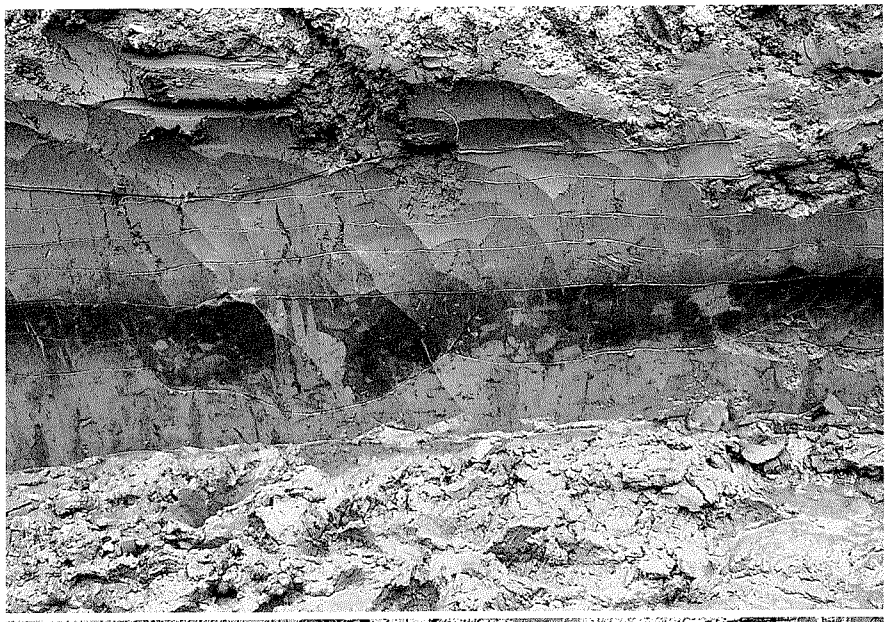
写真図版　3

1．ＳＫ03土層断面
（北より）

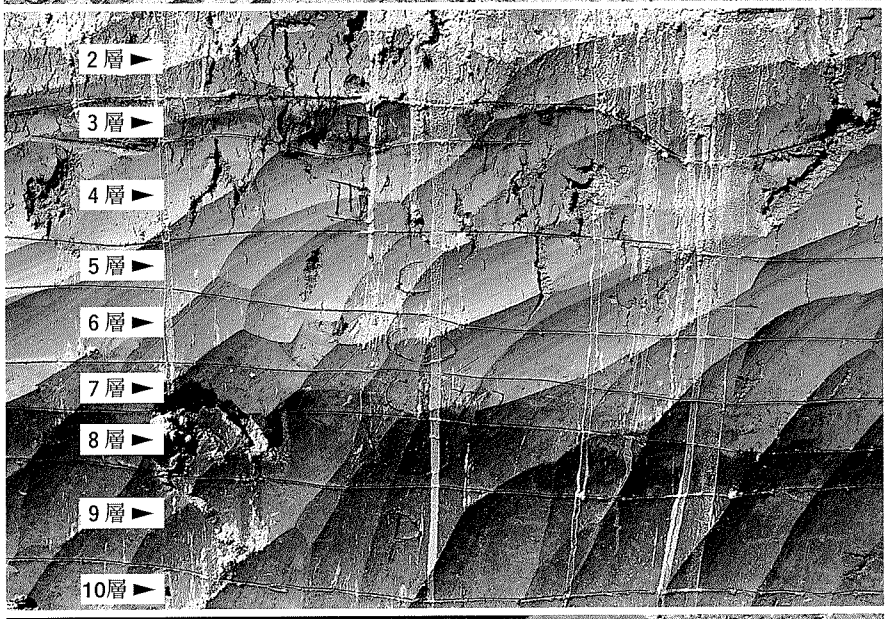
2．ＳＫ04（南東より）

3．ＳＫ05（南西より）

写真図版　4

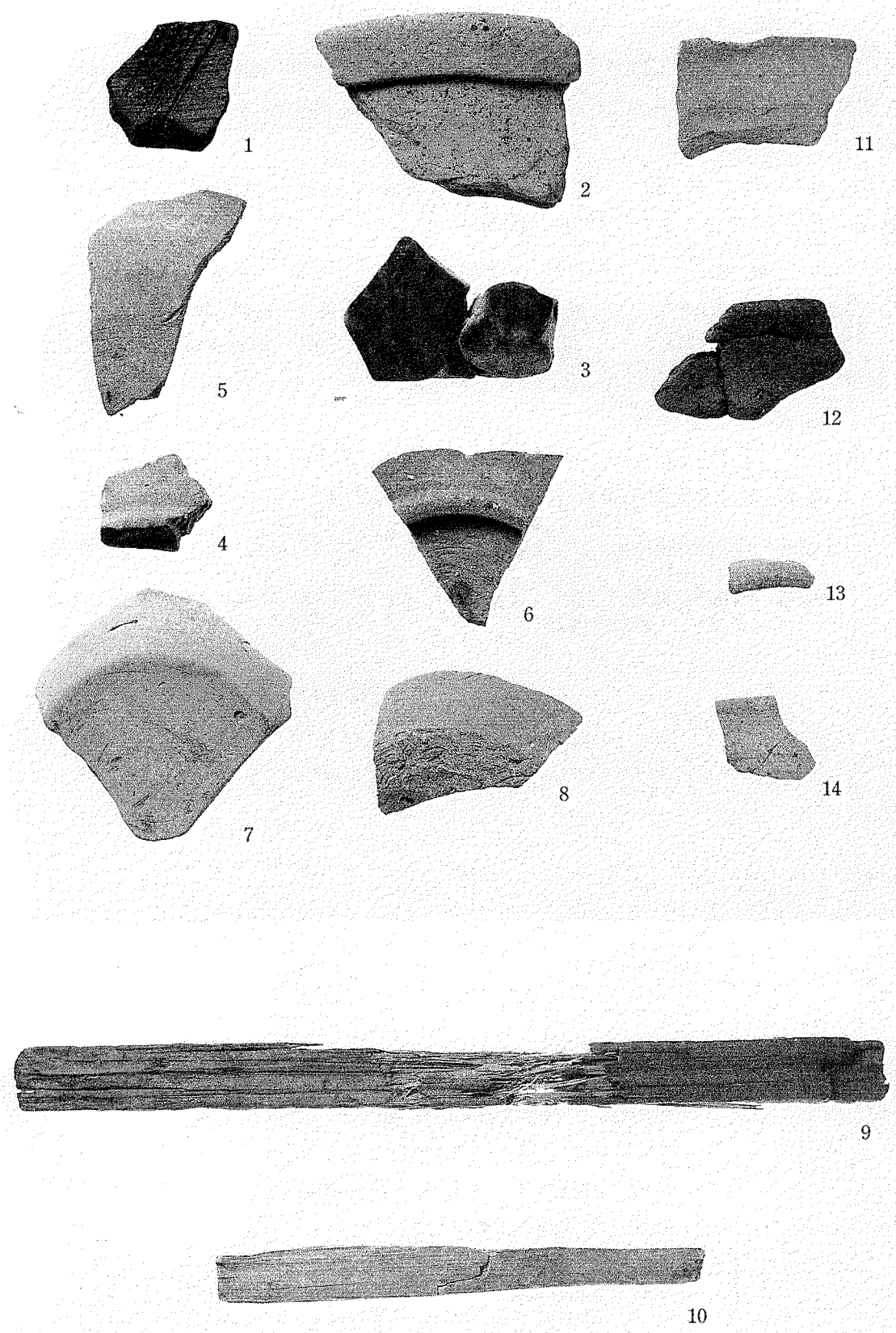


1．ＳＫ06（左）、ＳＫ07
（右）土層断面
（北より）



2．調査区北側壁面
土層堆積状況
（南より）

3．ＳＫ02検出状況
（東より）



梶子北遺跡出土遺物

報告書抄録

書名（ふりがな）	梶子北遺跡Ⅲ（かじこきたいせき）
編著者名	村松聡一郎
編集機関	浜松市教育委員会　生涯学習部生涯学習推進課 〒430-0929 浜松市中央一丁目2-1イーステージ浜松オフィス棟5階
発行機関	財団法人　浜松市文化振興財団　〒430-7790 浜松市板屋町111-1
発行年月日	2007年3月23日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
梶子北遺跡（かじこきたいせき）	静岡県浜松市（しずおかけんはままつし） 西伊場町（にしいばちょう） 2275-1外（ほか）	22202	12-27	34度 41分 58秒	137度 42分 28秒	2006年 9月19日 ～9月22日	213㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
梶子北遺跡	旧河道	弥生時代中期	（包含層）	弥生土器（瓜郷式）、板材	梶子北大溝内
	墓域	弥生時代後期（前半）	土壙7	なし	広域に土壙群が存在
	水田跡	古墳時代前中期	水田	古式土師器	広域に水田が存在
	旧河道	古墳時代後期～鎌倉時代	（包含層）	須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、山皿、板材	梶子北大溝内

（※緯度経度は世界測地系による。）

梶子北遺跡Ⅲ（かじこきた）

2007年3月23日

発行　財団法人　浜松市文化振興財団

編集　浜松市教育委員会
　生涯学習部生涯学習推進課
　〒430-0929
　静岡県浜松市中央一丁目2-1
　イーステージ浜松オフィス棟5階
　TEL　053-457-2466

印刷　株式会社 杉山印刷